

氏名	星野 純子	部署	看護学科	職名	講師
研究分野	在宅看護学、緩和ケア				
学位	学士(看護学)				
学歴					
経歴	2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師、06年埼玉県立大学地域産学連携センター認定看護師教育課程(緩和ケアコース)専任教員兼務				
所属学会(役職)	日本緩和医療学会、日本在宅ケア学会、日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本看護管理学会、日本在宅看護学会				

【2015年度実績】

1. 研究業績					
著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月	
(1) 著作					
1 該当なし					
(2) 論文					
1 がん体験者を支援する市民サポーター養成に関するニーズ調査	共著	保健医療福祉科学; 5; p18-24	佐伯理絵、鈴木玲子、 星野純子 (他6)	2016.3	
(3) 学会発表					
1 「埼玉県在宅を支える認定看護師会」の活動と発展過程	共著	日本在宅看護学会誌; 4(1); p64	○佐伯聡子、 星野純子	2015.10	
2 在宅緩和ケアの充実に向けた訪問看護ステーションにおける認定看護師との連携の実際	共著	日本がん看護学会誌; 30(特別号); p237	○ 星野純子 、筑後幸恵	2016.2	
3 模擬患者参加型のコミュニケーション演習の実際と効果-緩和ケア認定看護師教育の場合-	共著	日本がん看護学会誌; 30(特別号); p221	○筑後幸恵、 星野純子	2016.2	
(4) その他					
1 該当なし					
2. 競争的資金等の研究					
競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間	
1 文部科学省・日本学術振興会化学研究費補助金(基盤研究C)	在宅緩和ケアの充実に向けた認定看護師を活用した訪問看護コンサルテーションシステムの構築(研究代表者)			2015.4~2016.3	
3. 教育業績					
講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)			
(1) 講義					
1 在宅看護学	2015.4~8	主に終末期療養者と家族への在宅支援、継続看護について講義を行った。訪問看護のイメージがわくよう、事例を盛り込むなど工夫した。			
2 スタートアップセミナー	2015.4~9	1年生の初学者教育として、学生がPBLを体験できるようガイドを作成した。			
3 緩和ケア総論	2015.9~10	緩和ケア認定看護師を目指す受講生が自身の「緩和ケアの原点」を認識できること、さらには共有できるよう、発表の機会を設けた。			
4 症状マネジメント総論	2015.9~10	症状緩和の基本である患者主体の症状マネジメント理論が理解できるよう、事例を活用した。			
5 喪失・悲嘆・死別	2015.10	緩和ケアを受ける患者・家族の喪失体験を理解できるよう、基礎的な知識を教授した。さらに、近年課題となっている若年がん患者の増加に伴う遺される子どもや老親にも意識が志向できるよう工夫した。			
6 緩和ケアにおける家族ケア	2015.11~12	ケアの対象である家族をとらえ、家族の持つ強みを活かしたケアを展開できるよう教授した。			
7 相談(コンサルテーション)	2015.12	受講生30名に対し、コンサルテーション計画が立案できるように事例を用い教授した。			

(2) 演習			
1	症状マネジメント演習	2015.10～12	緩和ケア認定看護師として、全人的・包括的なアセスメントができるよう、事例を用いて看護過程の展開演習を行った。
2	総合演習	2015.10～12	緩和ケア認定看護師に期待されるコミュニケーションスキルの獲得のため、自己の傾向を認識できるよう、模擬患者を活用した演習を行った。
3	ケースセミナー演習	2016.2～3	15名の受講生を担当し、6週間の実習の学びをケースセミナーとしてまとめられるよう、個別指導を行った。さらに、受講生同士がサポートしあえる環境を整えることで、15名全員が発表までできた。
(3) 実習			
1	公衆衛生看護学実習	2015.5～7	40名選択制に工夫した。なつて、はじめての実習であることから、より保健師像がつかめるよう指導者との連携・調整に努めるとともに、カンファレンスを工夫した。
2	総合実習	2015.7～8	在宅領域を希望する4年次3名の学生に対し、自己の目標が達成できるよう訪問看護ステーションを選定し、学びをサポートした。
3	認定看護実習	2016.1～2	15名の受講生を担当し、緩和ケア病棟・緩和ケアチーム・訪問看護ステーションで6週間の臨地実習指導を行った結果、全員単位を取得できた。
(4) 論文指導			
1	卒業研究	2015.4～2016.1	主指導：2名
(5) その他			
1	該当なし		
4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会等の講師			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	看護学生実習指導者講習会	埼玉県看護協会	在宅看護論実習の展開
2	訪問看護研修ステップ I	埼玉県看護協会	訪問看護の対象者の理解
3	多職種連携の先進事例を知って地域での自分の役割を自覚する研修	日本医業経営コンサルタント協会	自分の最期をデザインしよう
	開催年月		
			2015.6
			2015.9
			2016.1
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	埼玉県訪問看護ステーション協会	顧問	2015.4～2016.3
2	埼玉県在宅を支える認定看護師会	顧問	2011.4～現在
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
5. 学内運営(委員会委員)			
1	保健委員会 委員		
2	認定看護師教育課程専門部会 委員		
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	緩和ケアサロンの開催(年6回)		
2	認定看護師教育課程10周年記念講演会の開催		